

経済レポート

景気ウォッチャー調査(東海地区:2017年8月)

～ 現状判断DIは2ヶ月連続で低下 ～

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

9月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の8月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断 季節調整値)は、前月差 1.5 ポイント低下の 49.9 と2ヶ月連続で低下した。原数値では前月差 3.0 ポイント低下の 49.0 と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を9ヶ月ぶりに下回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同 1.2 ポイント低下の 46.7 と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同 6.9 ポイント低下の 53.5 と3ヶ月ぶりに大幅に低下したが、横ばいを示す 50 を9ヶ月連続で上回った(注1)。

現状判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)				
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	
17	6	52.7	2.7	50.0	1.4	51.7	0.9	49.9	-0.2	50.0	1.5	48.2	-0.7	55.3	0.0	53.4	0.9
	7	51.4	-1.3	49.7	-0.3	52.0	0.3	51.0	1.1	47.9	-2.1	49.8	1.6	60.4	5.1	53.6	0.2
	8	49.9	-1.5	49.7	0.0	49.0	-3.0	49.6	-1.4	46.7	-1.2	47.9	-1.9	53.5	-6.9	53.0	-0.6

8月の先行き判断DI(2~3ヶ月前先の景気の先行きに対する判断 季節調整値)は、前月差 0.6 ポイント上昇の 50.6 と5ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 0.7 ポイント低下の 49.8 と3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を5ヶ月ぶりに下回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同 0.4 ポイント上昇の 48.7 と3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す 50 を2ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同 3.3 ポイント低下の 51.9 と2ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を5ヶ月連続で上回った。

先行き判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)				
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	
17	6	49.7	0.3	50.5	0.9	51.3	-0.9	51.5	0.0	50.2	-0.1	50.7	0.0	53.6	-2.3	53.2	0.1
	7	50.0	0.3	50.3	-0.2	50.5	-0.8	50.6	-0.9	48.3	-1.9	49.2	-1.5	55.2	1.6	53.4	0.2
	8	50.6	0.6	51.1	0.8	49.8	-0.7	50.1	-0.5	48.7	0.4	49.1	-0.1	51.9	-3.3	52.3	-1.1

現在の景気の水準自体に対する判断DI(季節調整値)は、8月は前月差 2.7 ポイント低下の 48.8 と5ヶ月ぶりに低下した。原数値では前月差 3.6 ポイント低下の 48.3 と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を3ヶ月ぶりに下回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同 3.8 ポイント低下の 44.0 と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す 50 を41ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同 4.0 ポイント低下の 56.4 と3ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す 50 を11ヶ月連続で上回った。

現状判断DI(水準)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)				
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	
17	6	49.3	0.3	48.3	0.8	50.3	1.4	48.5	0.2	47.4	1.8	45.8	-0.1	56.3	0.7	54.0	0.9
	7	51.5	2.2	48.9	0.6	51.9	1.6	49.8	1.3	47.8	0.4	47.7	1.9	60.4	4.1	54.2	0.2
	8	48.8	-2.7	48.3	-0.6	48.3	-3.6	48.2	-1.6	44.0	-3.8	45.8	-1.9	56.4	-4.0	52.9	-1.3

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足や海外情勢に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」とまとめ、現状、先行きともに先月の判断を据え置いた。

(7月のまとめ)「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足に対する懸念もある一方、引き続き設備投資等への期待がみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方は「持ち直しの動きが一服している。先行きについては、季節要因による改善が見込まれる一方、地政学リスクへの懸念もあり、総じて見ると横ばいの動きが見込まれている」とまとめられる。

(7月のまとめ)「持ち直しの動きが引き続きみられる。先行きについては、家計関連では見方が慎重となる一方、企業関連では受注や販売の伸びに期待する声が広がっており、総じて見ると横ばいの動きが見込まれている」

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるD I (原数値) は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のD I 算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡

南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川

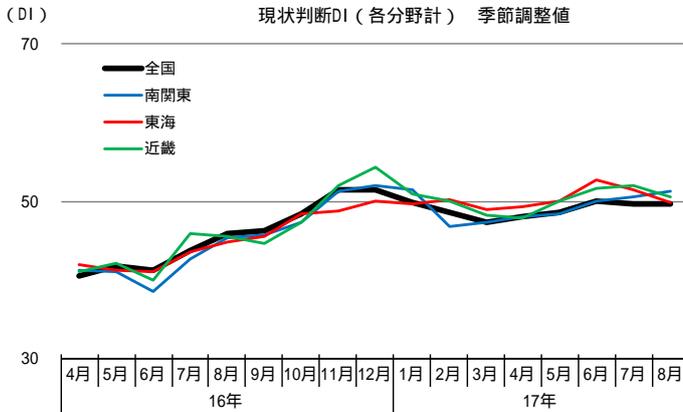
近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

(1) 季節調整値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DIは、前月差1.5ポイント低下の49.9と2ヶ月連続で低下した。南関東よりやや低く、全国、近畿とほぼ同水準となった。

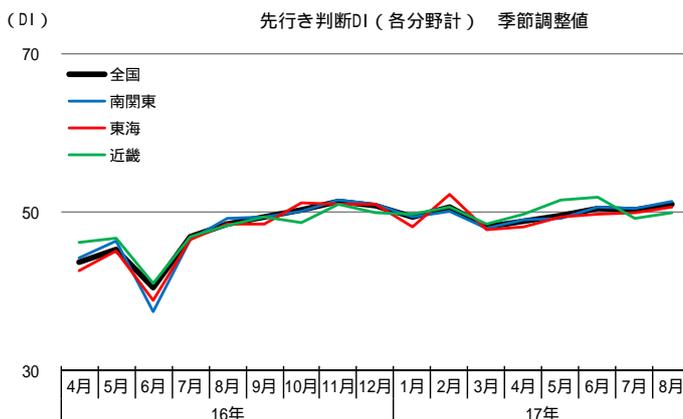


各分野計(季節調整値)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	40.6	41.3	42.0	41.1	
	5月	41.7	41.0	41.2	42.1	
	6月	41.2	38.6	41.1	40.0	
	7月	43.8	42.7	43.6	46.0	
	8月	46.0	45.4	44.9	45.6	
	9月	46.3	45.8	45.6	44.7	
	10月	48.4	47.3	48.5	47.3	
	11月	51.4	51.3	48.7	52.1	
	12月	51.4	52.0	50.1	54.4	
	17年	1月	49.8	51.4	49.6	50.9
		2月	48.6	46.8	50.3	50.1
		3月	47.4	47.4	48.9	48.3
4月		48.1	48.1	49.4	47.9	
5月		48.6	48.5	50.0	50.1	
6月		50.0	50.1	52.7	51.7	
7月		49.7	50.5	51.4	52.1	
8月		49.9	51.3	49.9	50.6	

景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DIは、前月差0.6ポイント上昇の50.6と5ヶ月連続で上昇した。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となった。

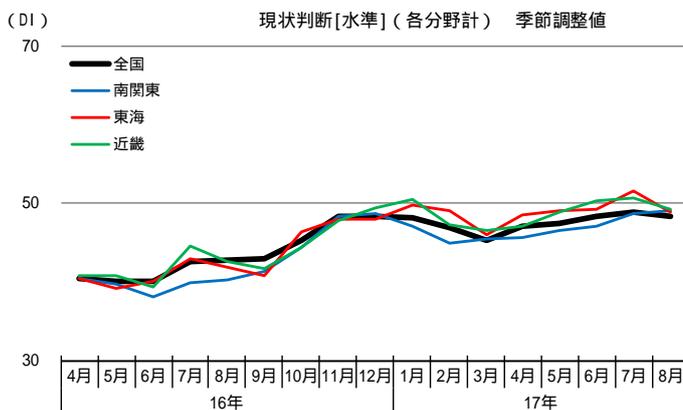


各分野計(季節調整値)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	43.7	44.3	42.6	46.2	
	5月	45.4	46.3	45.2	46.7	
	6月	40.5	37.5	38.9	41.1	
	7月	46.9	46.6	46.6	47.0	
	8月	48.6	49.2	48.5	48.4	
	9月	49.4	49.5	48.5	49.4	
	10月	50.3	50.1	51.2	48.7	
	11月	51.3	51.6	51.0	51.0	
	12月	50.9	51.0	51.0	50.0	
	17年	1月	49.4	49.5	48.1	49.8
		2月	50.6	50.2	52.3	50.6
		3月	48.1	47.9	47.8	48.6
4月		48.8	49.1	48.2	49.7	
5月		49.6	49.2	49.4	51.5	
6月		50.5	50.6	49.7	51.9	
7月		50.3	50.5	50.0	49.2	
8月		51.1	51.3	50.6	50.0	

景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DIは、前月差2.7ポイント低下の48.8と5ヶ月ぶりに低下した。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となった。



各分野計(季節調整値)

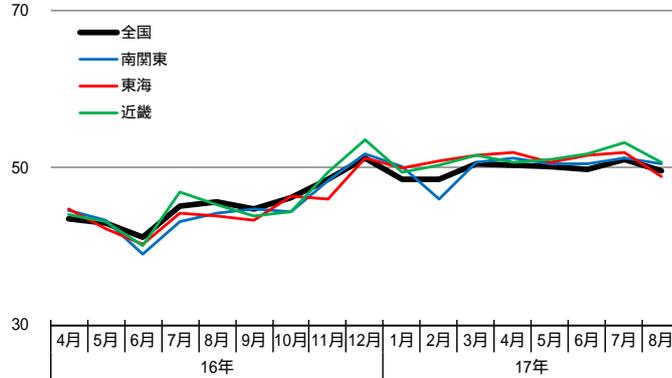
		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	40.5	40.5	40.4	40.7	
	5月	40.0	39.7	39.2	40.7	
	6月	40.0	38.1	40.0	39.3	
	7月	42.5	39.9	43.0	44.5	
	8月	42.8	40.2	41.8	42.6	
	9月	43.0	41.4	40.8	41.6	
	10月	45.3	44.3	46.4	44.3	
	11月	48.4	48.3	47.9	47.8	
	12月	48.3	48.7	48.0	49.4	
	17年	1月	48.2	47.1	49.7	50.4
		2月	46.8	45.0	49.1	47.2
		3月	45.3	45.5	46.0	46.5
4月		47.0	45.7	48.5	47.1	
5月		47.5	46.6	49.0	48.8	
6月		48.3	47.1	49.3	50.3	
7月		48.9	48.7	51.5	50.7	
8月		48.3	49.1	48.8	49.2	

(2) 原数値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差3.0ポイント低下の49.0と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を9ヶ月ぶりに下回った。南関東、近畿よりやや低く、全国とほぼ同水準となっている。

(DI) 現状判断DI(各分野計)

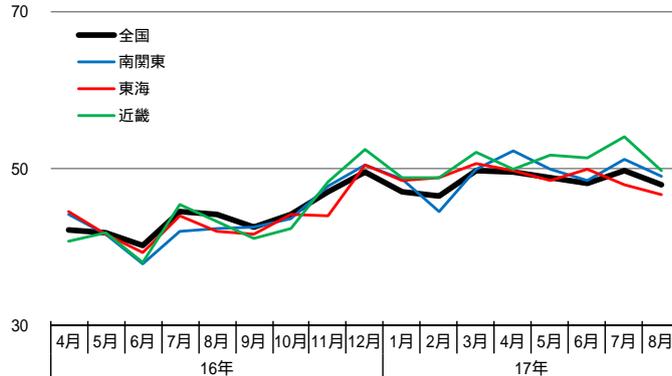


各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	43.5	44.6	44.7	44.1	
	5月	43.0	43.4	42.2	43.1	
	6月	41.2	39.1	40.3	40.1	
	7月	45.1	43.2	44.2	46.9	
	8月	45.6	44.3	43.9	45.4	
	9月	44.8	44.7	43.3	43.9	
	10月	46.2	44.5	46.4	44.5	
	11月	48.6	48.3	46.0	49.4	
	12月	51.2	51.8	51.3	53.6	
	17年	1月	48.6	50.2	50.0	49.5
		2月	48.5	46.1	50.9	50.3
		3月	50.6	50.8	51.7	51.7
4月		50.4	51.3	51.9	50.7	
5月		50.1	50.6	50.8	51.0	
6月		49.9	50.6	51.7	51.8	
7月		51.0	51.2	52.0	53.2	
8月		49.6	50.6	49.0	50.7	

家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同1.2ポイント低下の46.7と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。全国よりやや低く、南関東、近畿より低い水準となっている。

(DI) 現状判断DI(家計動向関連)

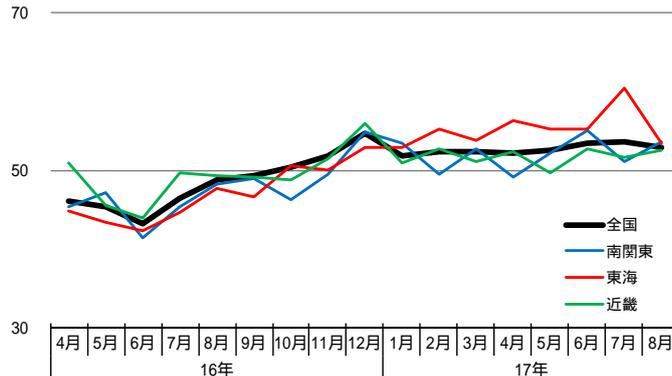


家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	42.2	44.2	44.6	40.7	
	5月	41.9	41.6	41.6	41.9	
	6月	40.2	37.9	39.3	38.1	
	7月	44.5	42.1	44.0	45.4	
	8月	44.1	42.4	42.0	43.2	
	9月	42.6	42.6	41.6	41.1	
	10月	44.1	43.7	44.2	42.3	
	11月	47.1	47.8	44.0	48.3	
	12月	49.6	50.4	50.5	52.4	
	17年	1月	47.0	48.6	48.5	48.8
		2月	46.6	44.5	48.9	48.9
		3月	49.7	49.9	50.7	52.0
4月		49.5	52.3	49.8	49.9	
5月		48.9	49.9	48.5	51.7	
6月		48.2	48.5	50.0	51.3	
7月		49.8	51.2	47.9	54.0	
8月		47.9	49.0	46.7	49.7	

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同6.9ポイント低下の53.5と3ヶ月ぶりに大幅に低下したが、横ばいを示す50を9ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。

(DI) 現状判断DI(企業動向・雇用関連)

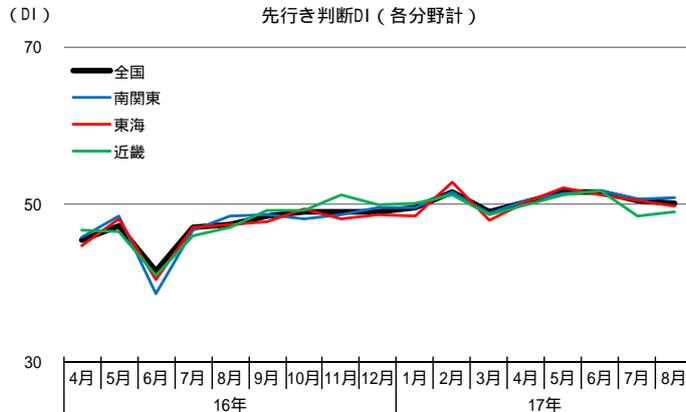


企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	46.1	45.3	44.8	50.9	
	5月	45.3	47.1	43.4	45.6	
	6月	43.2	41.5	42.3	44.0	
	7月	46.4	45.3	44.7	49.7	
	8月	48.7	48.3	47.7	49.4	
	9月	49.4	49.0	46.7	49.2	
	10月	50.4	46.2	50.6	48.8	
	11月	51.8	49.5	50.0	51.5	
	12月	54.7	54.9	52.9	56.0	
	17年	1月	51.9	53.4	53.0	50.9
		2月	52.3	49.5	55.2	52.7
		3月	52.4	52.7	53.8	51.2
4月		52.2	49.2	56.3	52.3	
5月		52.5	52.2	55.3	49.7	
6月		53.4	55.0	55.3	52.7	
7月		53.6	51.2	60.4	51.7	
8月		53.0	53.7	53.5	52.6	

景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

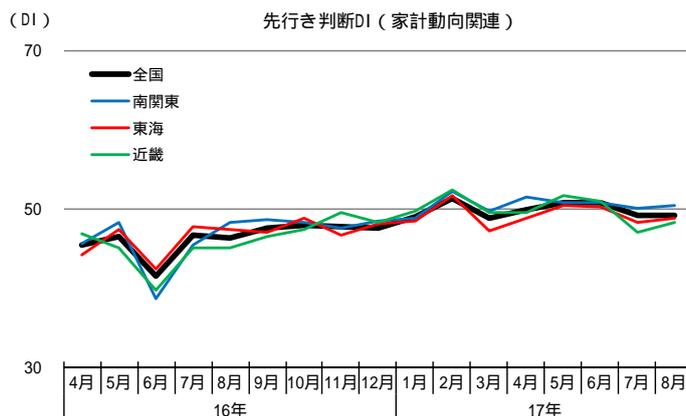
2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計）は、前月差0.7ポイント低下の49.8と3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を5ヶ月ぶりに下回った。南関東よりやや低く、全国、近畿とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	45.5	45.8	44.8	46.7	
	5月	47.3	48.5	48.2	46.6	
	6月	41.5	38.7	40.5	41.1	
	7月	47.1	46.8	47.1	46.1	
	8月	47.4	48.6	47.5	47.1	
	9月	48.5	48.7	47.9	49.3	
	10月	49.0	48.1	49.4	49.2	
	11月	49.1	48.8	48.2	51.2	
	12月	49.0	49.6	48.8	50.0	
	17年	1月	49.7	49.6	48.6	50.1
		2月	51.5	51.5	52.8	51.3
		3月	49.0	48.9	48.0	48.8
4月		50.4	50.6	50.3	50.0	
5月		51.5	51.4	52.2	51.3	
6月		51.5	51.8	51.3	51.7	
7月		50.6	50.7	50.5	48.5	
8月		49.8	50.9	49.8	49.0	

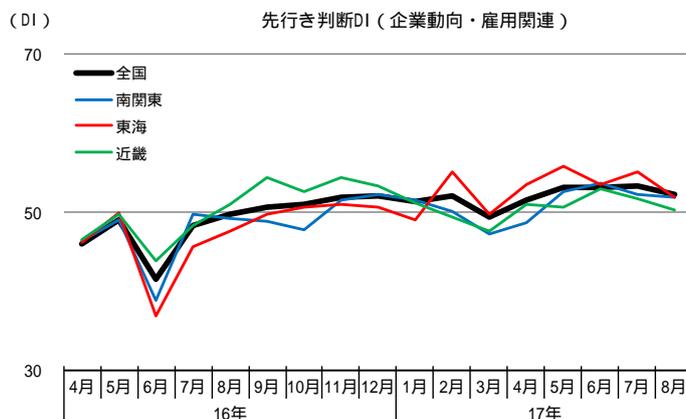
家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同0.4ポイント上昇の48.7と3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。南関東よりやや低く、全国、近畿とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	45.3	45.6	44.1	46.8	
	5月	46.5	48.2	47.3	45.1	
	6月	41.5	38.6	42.4	39.7	
	7月	46.6	45.4	47.7	45.0	
	8月	46.3	48.2	47.4	45.0	
	9月	47.5	48.6	47.0	46.5	
	10月	47.9	48.2	48.7	47.4	
	11月	47.7	47.6	46.7	49.5	
	12月	47.6	48.4	48.0	48.2	
	17年	1月	48.9	48.7	48.4	49.6
		2月	51.2	52.1	51.6	52.3
		3月	48.8	49.7	47.2	49.4
4月		49.9	51.5	48.8	49.4	
5月		50.7	50.8	50.3	51.7	
6月		50.7	50.8	50.2	51.0	
7月		49.2	50.0	48.3	46.9	
8月		48.7	50.4	48.7	48.3	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同3.3ポイント低下の51.9と2ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った。近畿よりやや高く、全国、南関東とほぼ同水準となっている。

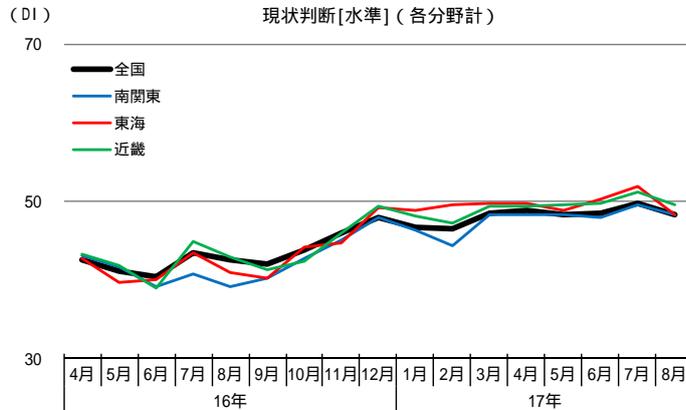


企業動向関連+雇用関連
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	46.0	46.3	46.2	46.5	
	5月	49.0	49.0	50.0	49.7	
	6月	41.6	38.8	36.9	43.8	
	7月	48.3	49.8	45.7	48.3	
	8月	49.8	49.3	47.7	51.1	
	9月	50.6	48.8	49.7	54.5	
	10月	51.1	47.8	50.6	52.6	
	11月	51.9	51.5	51.0	54.4	
	12月	52.1	52.2	50.7	53.3	
	17年	1月	51.3	51.5	49.0	51.2
		2月	52.1	50.2	55.2	49.5
		3月	49.4	47.3	49.7	47.7
4月		51.5	48.7	53.5	51.1	
5月		53.1	52.7	55.9	50.6	
6月		53.2	53.7	53.6	53.0	
7月		53.4	52.2	55.2	51.7	
8月		51.9	52.0	51.9	50.3	

景気の現状判断（水準）

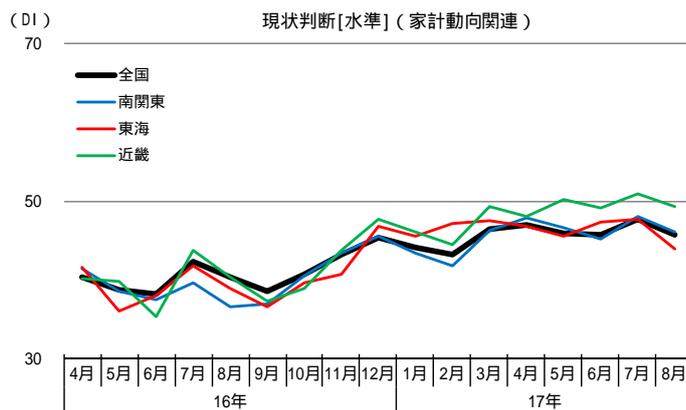
現在の景気的水準自体に対する判断DI（各分野計）は、前月差3.6ポイント低下の48.3と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を3ヶ月ぶりに下回った。近畿よりやや低く、全国とほぼ同水準、南関東と同水準になっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	42.6	43.1	42.7	43.2	
	5月	41.1	41.7	39.6	41.9	
	6月	40.3	39.1	40.1	38.9	
	7月	43.4	40.8	43.4	44.8	
	8月	42.5	39.2	41.0	42.9	
	9月	42.0	40.2	40.2	41.2	
	10月	43.7	42.7	44.1	42.4	
	11月	46.0	45.1	44.6	45.9	
	12月	48.0	48.0	49.1	49.4	
	17年	1月	46.7	46.3	48.8	48.1
		2月	46.4	44.3	49.6	47.2
		3月	48.4	48.2	49.7	49.4
4月		48.9	48.2	49.8	49.4	
5月		48.3	48.3	48.9	49.6	
6月		48.5	48.0	50.3	49.7	
7月		49.8	49.6	51.9	51.1	
8月		48.2	48.3	48.3	49.5	

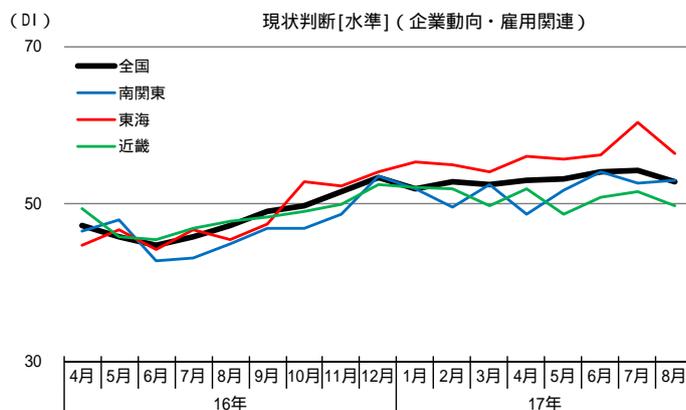
家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同3.8ポイント低下の44.0と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を41ヶ月連続で下回った。南関東、近畿より低く、全国よりやや低い水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	40.3	41.4	41.7	40.1	
	5月	38.8	38.6	36.0	39.8	
	6月	38.2	37.4	38.0	35.4	
	7月	42.3	39.7	41.8	43.8	
	8月	40.3	36.6	38.9	40.4	
	9月	38.6	37.0	36.6	37.3	
	10月	40.7	40.6	39.7	38.9	
	11月	43.2	43.4	40.7	43.7	
	12月	45.4	45.6	46.8	47.8	
	17年	1月	44.2	43.5	45.6	46.1
		2月	43.3	41.8	47.1	44.5
		3月	46.5	46.2	47.5	49.3
4月		47.0	47.9	46.8	48.1	
5月		45.9	46.7	45.6	50.2	
6月		45.8	45.2	47.4	49.1	
7月		47.7	48.1	47.8	50.9	
8月		45.8	46.1	44.0	49.4	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同4.0ポイント低下の56.4と3ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す50を11ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。



企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	4月	47.3	46.5	44.8	49.4	
	5月	45.9	48.0	46.7	45.9	
	6月	44.8	42.7	44.2	45.5	
	7月	45.8	43.1	46.7	46.9	
	8月	47.2	44.9	45.4	47.7	
	9月	49.1	46.8	47.4	48.3	
	10月	49.8	46.9	52.8	49.1	
	11月	51.6	48.7	52.2	50.0	
	12月	53.4	53.5	54.0	52.4	
	17年	1月	52.0	52.0	55.4	52.1
		2月	52.9	49.5	54.9	51.9
		3月	52.4	52.5	54.1	49.7
4月		53.0	48.7	56.0	52.0	
5月		53.1	51.7	55.6	48.6	
6月		54.0	54.0	56.3	50.8	
7月		54.2	52.7	60.4	51.5	
8月		52.9	53.0	56.4	49.7	

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1) 景気の現状判断

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。8月調査では、「やや良くなっている」の割合が大きく低下する一方で、「変わらない」「やや悪くなっている」「悪くなっている」の割合が上昇した。

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年8月調査	1	24	134	58	12	229
9月調査	1	24	126	62	12	225
10月調査	3	33	136	53	10	235
11月調査	5	29	132	54	11	231
12月調査	5	53	113	40	6	217
2017年1月調査	2	47	133	37	7	226
2月調査	6	52	120	38	9	225
3月調査	3	53	129	36	4	225
4月調査	4	52	127	31	6	220
5月調査	8	46	128	39	8	229
6月調査	5	49	138	33	5	230
7月調査	5	60	124	41	5	235
8月調査	3	45	128	46	7	229

(家計動向関連)

家計動向関連の回答でも、「変わらない」「やや悪くなっている」「悪くなっている」の割合が上昇した。悪化の理由として天候不順をあげる声が目立つ。

- ・前年からの伊勢志摩サミットの効果も一段落し、平穏さを取り戻している。天候不順も重なって、やや落ち込みがみられる。(一般小売店[土産]経営者)
- ・今月は天候の影響が大きく、飲食店でピールの動きが非常に悪い。(一般小売店[酒類]経営者)
- ・天候不順の影響もあって来客数が減少している。(百貨店経理担当)
- ・8月は天候が非常に悪く、来客数が減少している。天候が良い日でも、来客数は前年より減少しており、全体的に厳しくなっている。(コンビニエリア担当)
- ・天候不順で夏らしい暑い日が少なく、曇りや雨の影響で来客数が減少している。(コンビニエリア担当)

8月は盆や夏休みで消費が伸び悩む月ということもあって、景況感の悪化につながっているようだ。

- ・8月は消費が伸び悩む時期だが、好収益の法人客への販売によって売上を確保している。個人客の消費は伸びない。自分に対する金は使っても、人に何かを贈るといった金の使い方はしない。(一般小売店[贈答品]経営者)
- ・全体的には景気はあまり変わらず、例年どおりとなっている。8月は天候不順で野菜が値上がりしているが、売上増加にはつながっていない。高齢者の医療費負担が増えており、景気に影響している。今月は企業でも長い夏休みがあり、工場の生産量が落ちて景気にはマイナスとなっている。(スーパー経営者)
- ・夏場は例年落ち込むが、いつもより更に落ち込んでいる。(その他飲食[仕出し]経営者)

改善方向のコメントでは、客単価の上昇をあげるものが散見される。

- ・7月中旬以降、客単価が上昇している。今月は客単価の上昇に伴って売上も増加している。(商店街代表者)
- ・例年に比べてお盆明けの来客数はやや多く、客単価も少し上昇している。(一般レストラン[パン・カフェ]経営者)
- ・製造業を中心に順調に推移しており、利用頻度、客単価共に良好である。(都市型ホテル営業担当)
- ・客に購買意欲は見受けられないが、全く買わないわけでもない。若干ではあるが高単価の商品を買う客が増えている。(スーパー企画・経営担当)

客単価の上昇をあげる声がある一方で、消費者の節約志向、客単価の低下をあげる声もある。また、高額品は好調だが伸びが鈍っているとのコメントも見られる。

- ・日用品の価格訴求型販売に対する客の反応は良い。一方、嗜好品についても反応は良く、消費の二極化が定着している。(スーパー営業企画)
- ・紳士衣料に関しては、引き続き客の財布のひもは固い。衣料に金をかけるという意識が、今の消費者にはない。(衣料品専門店[紳士服洋品]売場担当)
- ・競争が激しくなって単価が上がらない。(都市型ホテル経営者)
- ・取引先や客の様子からは、節約志向がかなり強くなっていると感じる。(商店街代表者)
- ・今まで好調であった輸入品ブティック、宝飾品や化粧品等の高価格帯の商品は、好調ではあるものの伸び率がやや鈍化している。(百貨店販売担当)

旅行、レジャー関連のウォッチャーからは、北朝鮮情勢の悪影響を指摘するコメントがある。

- ・受注状況としては上向きではあるが、北朝鮮の影響でグアム行きを控えたりキャンセルする客がいる。(旅行代理店経営者)
- ・北朝鮮のミサイル問題の影響で、秋から冬に計画されていた大型のグアム団体旅行が2つ中止になり、約1,000名分、1億円の取扱がなくなった。ミサイルが業況を直撃した状態で、足元の収支が急激に悪化している。(旅行代理店従業員)
- ・世界情勢が悪化しており、インバウンドの客の動きが不安定である。(テーマパーク職員)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。自動車ディーラーにとって8月はあまり期待できない月であるようだ。

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年8月調査	0	1	6	1	0	8
9月調査	0	1	8	0	2	11
10月調査	0	2	5	4	0	11
11月調査	0	1	6	3	0	10
12月調査	0	2	6	1	0	9
2017年1月調査	0	4	4	1	0	9
2月調査	0	4	3	2	0	9

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
3月調査	0	3	6	1	0	10
4月調査	0	0	9	0	1	10
5月調査	1	1	4	1	0	7
6月調査	1	1	5	2	0	9
7月調査	0	2	7	2	0	11
8月調査	0	3	3	3	0	9

- ・8月は、例年なら客足もまばらで期待できない月であるが、計画値の150%の来客数がある。特に新型車種が出ているわけではないが、ハイブリッド車やミニバンを中心に成約が多く、このところ動きの少なかったファミリー層に動きを感じる。(乗用車販売店従業員)
- ・8月は途中で夏期休暇が入って商談の継続が難しく、店頭誘致もあまり芳しくない。連絡がとれた客からも強い購入意欲が感じられず、まだまだ市場は厳しい状態にある。(乗用車販売店従業員)
- ・来客数が減少している。8月はお盆もあって毎年客の動きが鈍くなる。(乗用車販売店経営者)
- ・例年8月は売れる月ではないが、例年以上に売れなかった。(乗用車販売店従業員)

(企業動向関連)

改善方向のコメントとしては、受注や設備投資の好調をあげるものがある。製造業中心の改善からサービス業に波及してきたとの指摘もある。

- ・商品の受注状況は安定している。国によりばらつきはあるものの計画達成の地域が多い。(電気機械器具製造業企画担当)
- ・通信・放送業界の設備投資意欲は高い。受注競争は厳しく個別では適正利益が得られない案件もあるが、受注総量で何とか利益を確保している。(電気機械器具製造業総務担当)
- ・これまで製造業を中心に業績が好転してきたが、サービス業の客先でも好転してきている。抑え気味であった役員報酬を上げるようになってきている。(会計事務所社会保険労務士)
- ・客先での新機種への立ち上げに伴う設備投資が続いている。(輸送用機械器具製造業品質管理担当)

受注の好調を指摘する声がある一方で、伸び悩みや懸念をあげるコメントもある。

- ・受注件数は多いが、小口化しており効率が悪い。以前は、少額では別途送料が必要になると伝えると、送料のかからない程度まで発注数量を増やす客が多かったが、必要量しか注文しない客が多くなっている。(窯業・土石製品製造業社員)
- ・受注額、販売額共に前年同期比でほぼ横ばいであるが、物価の上昇分を差し引くと実質マイナス5%ほどになる。(鉄鋼業経営者)
- ・受注金額としては、前々月や前月と変わらないが、キャンセルや増産等、客の状況が激しく変わってコンスタントに受注できないため、先行きの不透明感が強い。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・貨物の動きが1.8%減少と悪くなっている。(輸送業エリア担当)
- ・全国の1日当たりの取扱物量が、お盆明けから減少しており、3か月前にはなかった傾向がみられる。8月は閑散期ではあるが、例年にはない傾向にある。(輸送業エリア担当)

天候不順の影響をあげるコメントが企業関連でも見られる。

- ・8月に入ってから長雨で夏物商戦は下降気味であるが、前月までのプラス分でカバーしている。(食料品製造業経営企画担当)
- ・景気は安定的に推移している。今夏は天候が悪く飲料の売行きは悪いが、景気が悪くなったというほどの影響は感じない。衣料品のバーゲンセールも混雑していたり、夏休みの航空券の座席が取れなかったりと、景気の良さを感じる。(化学工業総務秘書)
- ・飲料業界では夏場が売上のピークとなるが、天候が思わしくなく伸び悩んでいる。特に一般小売業において、受注数が伸びていない。(食料品製造業営業担当)
- ・今年の夏は天候不順で、特に飲料水向け製品の受注が減っている。原材料の値上げもあるが製品価格への転嫁は難しく、景気はやや悪くなっている。(パルプ・紙・紙加工品製造業総務担当)

(雇用関連)

求人が増える一方、求職者は減少し、人手不足が続いているようだ。

- ・管理職やキャリア層の採用が増加しており、今後の事業拡大を見据えた企業の動きがみられる。(人材派遣業営業担当)
- ・自動車生産は好調で、下期に向けて生産体制を維持するため、求人者数の増加の動きがみられる。(アウトソーシング企業エリア担当)
- ・大口の解雇事案や事業主都合の離職等はなく、求職者は減少傾向にある。(職業安定所所長)
- ・相変わらず求職者の登録が減少傾向で、人材不足が続いている。(人材派遣会社社員)

(2) 景気の先行き判断

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。7月調査では、「やや悪くなる」の割合が上昇し、DIは小幅低下となった。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年8月調査	4	32	136	51	6	229
9月調査	4	33	133	50	5	225
10月調査	6	46	126	50	7	235
11月調査	3	46	123	49	10	231
12月調査	3	45	116	45	8	217
2017年1月調査	3	41	129	46	7	226
2月調査	6	59	120	34	6	225
3月調査	2	43	123	49	8	225
4月調査	2	46	131	35	6	220
5月調査	3	53	139	29	5	229
6月調査	3	48	142	32	5	230
7月調査	1	48	146	35	5	235
8月調査	1	47	134	43	4	229

(家計動向関連)

改善を見込むコメントでは、秋になれば良くなるといった季節の変遷に期待するものが多い。逆に言えば、それくらいしか改善要因が見いだせないともとれる。

- ・秋から冬に向けて寒くなってくると、商品が動き始める。(商店街代表者)
- ・3か月後は現在の気候と変わってくるため、必要となる物が変わる。(その他専門店[雑貨]店員)
- ・秋になり商品の動きが夏より上向く。(一般レストラン[パン・カフェ]経営者)
- ・年末に向けて、購買意欲が高まってくる気配がある。(通信会社営業担当)
- ・行楽シーズンを迎えるため、外出するための用具の販売やレンタルの売上増加を見込んでいる。(その他サービス[介護サービス]職員)

インバウンド消費は好調であり、家計動向関連のウォッチャーの判断を下支えしている。

- ・夏の暑さが続くとマイナス要因となるが、インバウンドや時計・宝飾等の富裕層向け商品は、今後も好調を維持する。(百貨店経営企画担当)秋から冬に向けて寒くなってくると、商品が動き始める。(商店街代表者)
- ・インバウンドで化粧品、食品や飲食等の売上が大きく伸びており、1~2%程度の底上げができていますが、衣料品やファッション雑貨等、売上シェアの高いアイテムが伸びず、全体では苦戦が続いている。この傾向が数か月で改善するとは思えない。(百貨店企画担当)

国内情勢は比較的良好だが、北朝鮮など海外情勢の悪影響を懸念するコメントが複数見られた。

- ・先行きに関しては、国内事情は上向きと考えているが、海外のリスクがどの程度か不透明である。(一般小売店[和菓子]企画担当)

- ・アベノミクスの効果がはっきりせず、先行きに対する期待がもてない。地政学的リスクが今後増大するのではないかという懸念が払拭できない。(百貨店販売担当)
- ・海外情勢に動きがあるが、国内情勢は内閣改造で少し落ち着きを取り戻しており、消費マインドの大きな変動はない。(スーパー営業企画)
- ・北朝鮮情勢が落ち着かないと、特に海外旅行については不安要素が払拭できない。(旅行代理店経営者)
- ・国内情勢は良いが、海外情勢が不透明である。(その他レジャー[スポーツレジャー紙]広告担当)
- ・北朝鮮を巡る情勢の一層の悪化に伴って旅行業界での風評被害はますます増える。修学旅行、公的な旅行や視察、研修旅行の中止等、自粛ムードが海外旅行に納まらず国内旅行にまで及ぶと一層悪化する。北海道、広島や四国方面への旅行の自粛も心配である。(旅行代理店従業員)

企業はよくても家計は厳しいとの指摘も見られる。所得が増えない中での物価上昇など、家計が楽観できない状況が進んでいるようだ。

- ・地元企業の決算が好調といわれているが、実態は海外生産や人手不足、派遣化による人件費縮小によるもので、家計への恩恵はない。当地域では安売りの大型店の開店も控えており、地元商業は更に厳しくなる。(通信会社企画担当)
- ・給与が上がらない一方で物価が少しずつ上昇し、客は住宅購入の負担感が重くなっているように見受けられる。先行きは悪くなる。(住宅販売会社経営者)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。少ないサンプルの中ではあるが、悪化方向のコメントはゼロであった。新型車種、9月の決算セールに期待する声がある。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年8月調査	0	2	8	2	0	12
9月調査	0	1	11	1	0	13
10月調査	0	4	8	1	0	13
11月調査	0	2	7	4	0	13
12月調査	0	5	6	2	0	13
2017年1月調査	0	3	7	3	0	13
2月調査	0	3	4	5	0	12
3月調査	0	1	3	8	0	12
4月調査	0	2	6	3	1	12
5月調査	0	2	8	1	0	11
6月調査	0	2	7	2	0	11
7月調査	0	2	8	2	0	12
8月調査	0	5	5	0	0	10

- ・新型車種の投入が今後は続くので、需要の喚起が期待できる。(乗用車販売店経営者)

- ・秋に向けて新型車種の発表が予定されている。これから秋の商戦が始まるので、車の安全装備をアピールして客に関心をもってもらい、買換えの検討を促したい。(乗用車販売店従業員)
- ・9月は他社においても半期決算バーゲンセール等が催されるため、ユーザーの購買意欲が刺激され、やや上向きになる。(乗用車販売店営業担当)
- ・新型車種の発表もなく、前年比で大幅な増加は見込めないが、半期決算で大型イベントを開催し、会社の販売施策もあるので、ある程度の車両販売台数は見込める。(乗用車販売店従業員)
- ・車両販売は一定の買換え需要がありこの3か月は比較的良かったが、更に伸びていく要素は見当たらない。(乗用車販売店総務担当)

(企業動向関連)

受注の好調をあげるコメントが引き続き見られる。一方で、これまで好調と見られていた自動車、半導体関連の懸念を指摘するコメントもあった。

- ・前年比で10%受注量が増加している。世の中でも完全失業率は低下し、好景気期間も長期化していざなぎ景気を超えている。(通信会社法人営業担当)
- ・受注量が高止まりしている。(一般機械器具製造業経理担当)
- ・短期的には確実に受注が減るような要因もないので、このままの状況がしばらくは続く。(電気機械器具製造業企画担当)
- ・自動車関連、半導体関連共に動きは良くない。自動車モーター用の磁性材やスマートフォン用単結晶製造品の動きは良く、現状維持が見込まれる。(窯業・土石製品製造業社員)

家計関連同様、季節が変わることによる好影響に期待するコメントがある。

- ・秋冬商材への移行がスムーズに進み、順調な立ち上がりが見込める。(食品製造業経営企画担当)
- ・秋から年末にかけて、荷動きが出てくる。(行政書士)

北朝鮮問題は企業関連にとっても懸念材料となっている。

- ・特段悪くなる理由はない。最大の懸案事項は北朝鮮情勢で、若干の円高となっているが、景気への影響は不透明である。(化学工業総務秘書)
- ・北朝鮮問題等の地政学的リスクもあり、株も為替も良い方向には動きにくい。当面は足元と変わらない景気が続く。(金融業企画担当)
- ・北朝鮮の動きに振り回されている。通貨の安全性から円が買われてはいるが、企業は非常に困惑している。新しい時代に対応するためには何をすれば一番いいのか、非常に分かりづらい状況である。(その他非製造業[ソフト開発]経営者)

(雇用関連)

人手不足の状況はこの先も続きそうだ。

- ・下期になっても求人側と求職者のすれ違いが続く。求人側は、自社の都合ばかりを優先した求人内容が多く、求職者にとっては魅力を感じないものが多い。(人材派遣会社営業担当)
- ・業務量拡大に見合う人材の確保が困難となっている。現状の人員で生産性を更に向上させるだけの体力をもっている企業はない。(職業安定所所長)

- ・職種別にみると、求職者が事務職や運搬・清掃等の職業に集中し、求人とのミスマッチが生じている。(職業安定所職員)
- ・企業では慢性的な人材不足が続き、生産性が徐々に低下している。(人材派遣会社社員)

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail: chosa-report@murc.jp